



STRINGED MUSICAL INSTRUMENTS

# BANJO

## 取扱説明書



この度は、アリア製品をお買い求めいただき誠に有難うございます。

アリア・バンジョーは優れた演奏性と高い品質を誇るブランドです。未長くお使いいただくためにも、本冊子を充分にお読みいただくようお願い申し上げます。

切れてケガをする恐れがあります。特に切れた弦が目に入ると目を傷付け、場合によっては失明の恐れがありますので、弦を交換するときには顔を弦に近付けないようにしてください。

### ピックガードのエッジでのケガに注意

ピックガードを使用しているモデルでは、エッジの部分がシャープな形状にデザインされているモデルがあります。プレイするときやクロスでボディを拭くときには手をケガしないよう注意してください。

### 楽器を家具などに立てかけない

楽器を使用しないときには、湿気の多い場所や火の近くをさけ、ケースにしまい低い場所に置かずスタンドに立てて倒れにくい状態で保管してください。高い場所から落下したり、倒れるとケガや家具などを傷付ける原因になります。また、楽器を直接家具などに長時間立てかけると、表面の塗装を溶かしたり色移りする場合がありますので注意してください。

### 楽器を持ち運ぶときの注意

楽器をバッグやケースで持ち運ぶときには、ファスナーや止め金をしっかりと締め、バッグのショルダーストラップのフックがしっかりかかっていることを確認してください。落下してケガをしたり物をこわす恐れがあります。また、バッグのファスナーやケースのフタで指をはさんでケガをすることがありますので十分に注意してください。

### 楽器の保管と運搬

●楽器は木製品ですから、過酷な温度・湿度条件には弱いものです。長時間自動車の中やストーブの近く、湿気の多い所などに放置すると、塗装ワレ・ネック反りなどをおこし、さらにはボディのヒビワレなど回復不能な故障を起こすことがあります。楽器にも住み心地の良い場所を与えてあげてください。

### 使用上のご注意

#### 湿気の多い場所では使わない

水気、湿気の多い場所、風呂場、雨の日の野外では使用しないで下さい。

分解、改造、修理をしない

分解、改造、修理は故障の原因になります。

#### 弦に顔を近付けない

演奏中や弦の交換、調整をするときに弦に顔を近付けないでください。弦が切れて顔にケガをする場合があります。特に切れた弦が目に入ると目を傷付け、場合によっては失明の恐れがあります。

#### さびた弦を使わない

さびた弦を張ったまま使用すると、指を切つてケガをすることがあります。

さびた弦はできるだけ早く新しい弦と交換してください。

#### フレットのエッジでのケガに注意

ネックの乾燥により、フレットが指板からはみ出してくる場合があります。

このような状態で使用するとフレットのエッジで手などにケガをすることがありますので注意してください。フレットがはみ出してきた場合には、すぐ使用をやめ、お店を通して修理を依頼してください。

#### 楽器の手入れ

楽器の表面の手入れには、専用のクリーナーやポリッシュをご使用ください。また、スプレータイプのものを使用するときには、換気、火気に十分注意してください（スプレーに書いてある注意書きを必ず読んでください）。シンナーやベンジンを使用しますと塗装やピックガードを傷め、変質したり変色したりすることがありますので、使用しないで下さい。

#### 弦で指を傷付けないよう注意する

弦の先、切断面は非常に鋭くなっていますので、手を触れて手を傷付けないよう注意してください。チューニングやヘッドをクロスで拭く時には、弦の先端に手が触れないよう注意しながら行ってください。弦を交換した時には、弦の余った部分が手に触れないよう短く切り揃えてください。

#### 弦を張り過ぎない

チューニングなどのために弦を張る時に、必要以上に強く弦を張りますと、

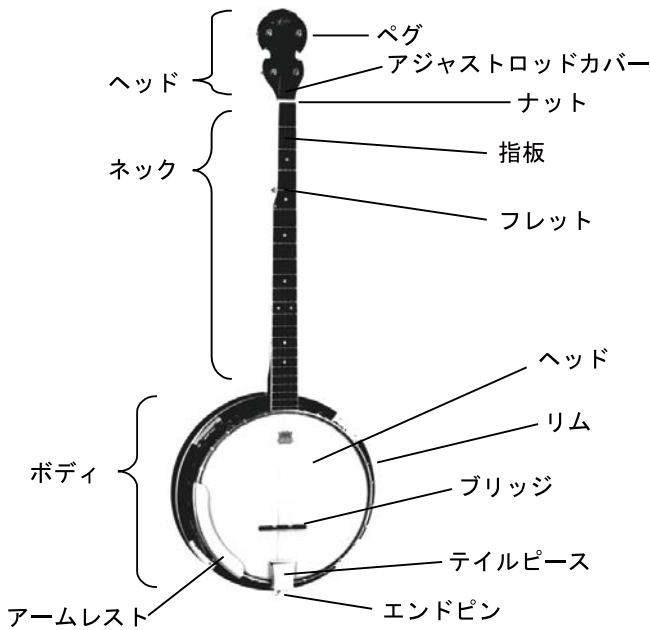
- 長期間使用せずにおく場合、季節による条件にも留意する必要があります。冬期には暖房によって室内もかなり乾燥しますから、押入れの下段など比較的空気の乾燥しない所においてください。また、夏期や特に雨季にはケース内に乾燥剤を入れたり、時々ケースから出すことも大切です。
- 楽器の保管と運搬にはハードケースのご使用をお勧めします。運搬の際、最も起きやすい事故はネック折れですから、ネック受け部とボディ受け部のしっかりした、ケースごとふつても内部で楽器が動かないハードケースを選んでください。バック型のものは持ち運びに便利ですが、車による運搬等には危険です。
- 使用しない期間が短い場合、弦はチューニングしたままでかまいません。長期間使用しない場合（1ヶ月以上）は糸巻のツマミを1～2回転分ゆるめておくことと安全です。ゆるめすぎたり、弦を外してしまうのもかえってよくありません。
- 本体が汚れた場合は別売のシリコンクロスで軽く拭きとってください。汚れがひどい場合は、別売のポリッシュを本体またはクロスに少量かけ、軽く拭きとってください。スプレーを使用した場合、最初は少し曇ったようになりますが、乾いたクロスで良く拭き取れば本来の輝きに戻ります。メーカーおよび一部のスプレーについては、使用上不適当なものがあります。お買い上げになった小売店などからアドバイスを受けると良いでしょう。

### 保証について

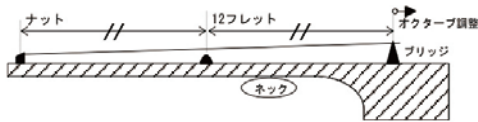
保証期間は商品によって1年または半年となっています。

保証期間であっても、故障の内容によっては修理代金をいただく場合がありますので、詳しくは保証書をご覧ください。

## 各部の名称



## ブリッジの取り付け



1. ゼロフレットから12フレットの距離と同じ長さの位置にブリッジを取り付けます。高音側低音側の違いはありません。
2. オクターブの調整：12フレット上のハーモニクスと実音を聞き比べて、ブリッジの位置を微調整します。使用する弦の種類にもよりますが、大体2ミリエンドピン側にずらすことになります。

## 弦の巻き方



音が以前に比べて悪くなってきた、ピッチ（音程）が合わない、弦が黒く汚れている。このようなときには弦を交換してください。弦は張ったすぐ後では本来の音が出ません。正しい音程に合わせた上で、弦がな

んだ時がベストです。そうすることによって楽器が本来持つ音色を楽しんでいただくことができます。STRINGPOST全体を使い、弦が十分に巻き付いている状態が望ましく、チューニングは最も安定します。巻き付ける回数は弦のゲージによって異なってきますが、裸弦の場合6～8回、巻弦の場合3～4回が適当です。

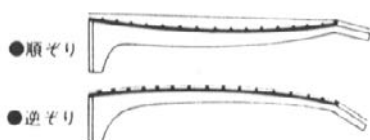
## 調整

いつも良い状態で演奏するには、時折楽器を調整する必要があります。アリア・バンジョーは最適な状態で出荷されていますので改めて調整を行う必要はありません。また、楽器の調整にはある程度の慣れと経験が必要ですので、楽器に慣れてきた頃に少しずつ行うのが良いでしょう。

### ネック調整

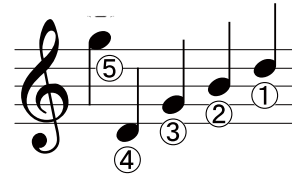
ネックが反っていると、ビリつき、音程の狂い、弦高が高すぎる、または低すぎるなどの原因となり、満足な演奏ができません。

- ネックの状態のチェックは、全ての弦を正しくチューニングしてから行います。



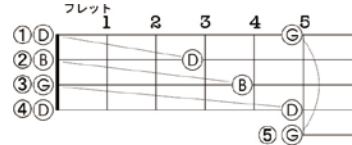
## チューニングの合わせ方（バンジョー）

ここでは5弦バンジョーの標準的なチューニングである、「オープンG」を取り上げます。また、チューニングにはさまざまな方法がありますが、その中から代表的な方法をあげてみました。開放弦を使った実音による方法です。



- 最初に他の楽器やピッチパイプ等を使い、まず4弦をDに合わせます。そしてこの第4弦を基準に各弦を合わせてゆきます。

- バンジョーの実音を合わせるには、次のように行います。



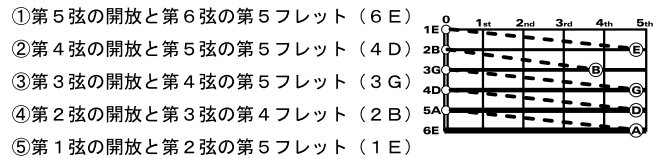
- ①第3弦の開放と第4弦の第5フレット（3B）
- ②第2弦の開放と第3弦の第4フレット（2D）
- ③第1弦の開放と第2弦の第3フレット（1D）
- ④第5弦の開放と第1弦の第5フレット（5G）

- チューニングは、一度だけでは完全に合いくいものです。一度チューニングしたあと、一弦ずつ少し引っぱり上げて、ノビ・アソビをなくし再度チューニングする。これを2～3回繰り返せば、新しい弦でも正しいチューニングを得ることができます。

## チューニングの合わせ方（ギターバンジョー）

最初に第5弦の開放をA440Hzに音叉・チューナーなどを使って合わせます。この場合、第5弦の12フレットでのハーモニクス音で合わせる方法もあります。そしてこの第5弦を基準に各弦を合わせてゆきます。

- ギターの実音を合わせるには、次のように行います。



- ①第5弦の開放と第6弦の第5フレット（6E）
- ②第4弦の開放と第5弦の第5フレット（4D）
- ③第3弦の開放と第4弦の第5フレット（3G）
- ④第2弦の開放と第3弦の第4フレット（2B）
- ⑤第1弦の開放と第2弦の第5フレット（1E）

- ネックの状態のチェックは、全ての弦を正しくチューニングしてから行います。ネックが弦に負けて弦高が高くなっている状態を順反りといい、逆に弦高が低くなってビリつきやすくなっている状態を逆反りといいます。いずれの場合も、ネックの内部に埋め込まれているトラスロッドを締めたり、ゆるめるなどして調整します。

- トラスロッドを使用するときは、弦をゆるめてから行います。順反りの場合はヘッドから見て時計回りに締め、逆反りの場合は逆に反時計回りにしてゆるめます。

\*ヘッド側に内蔵されているタイプでは、アジャストカバーをはずしてから調整します。

\*調整の際はしっかりとレンチを差し込んで、トラスロッドのナットをつぶさないように気を付けてください。

### ペグの調整

ペグがゆるみやすくなった、ペグのつまみがガタガタする、といった場合はツマミの上のネジをドライバーで軽く締めてください。

### ドラム（テンション）の調整

長期間バンジョーを使用しなかったり、気候の変化でバンジョーヘッドが緩んだ場合、ネジをしめて張りを強めることができます。4箇所（4箇所）のネジを外し、ボディの裏側からフックを締めて調整します。ただし、とりわけこの調整は経験が必要ですので、極力専門家に調整を依頼すると良いでしょう。